

出前移動展「近世の別海を探る！ ベツカイ・ニシベツ」

野付半島ネイチャーセンター2階ギャラリーにて、出前移動展を実施します。別海町発祥の地である本別海について、加賀家文書や同年代の書かれた文献資料により近世の様子を紹介しています。期間は3月1日（木）～30日（金）までです。ぜひ、ご覧下さい。

（この移動展は、平成21年度加賀家文書館第6回特別展で公開したものです。）



ふるさと講座・自然系 オジロワシ・オオワシ観察会のお知らせ！

ワシの他に、タンチョウやカモ類の渡りの季節で、たくさんの鳥たちが観察できます。とても欲張りな観察会です。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 平成24年3月24日（土）
午前9時～12時
- 場 所 風蓮湖・走古丹方面
- 講 師 別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇 氏
- 集 合 郷土資料館へ9時までに集合
観察場所への移動は、当館で送迎しますが、自家用車での移動もできます。
- 定 員 15名（3月1日（木）から受付を開始します。電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡ください。）
- 持 物 双眼鏡・図鑑（当館で若干貸出しします。）長靴を必ず着用ください。



加賀家文書歴史講座「西別川の献上鮭」2月4日（土）実施

平安時代から朝廷に献納されていた鮭の歴史や江戸時代の武家社会の中での各藩が行っていた水産物の献上などの話を含め、寛政12年（1800）から幕末にかけて江戸の将軍に献上されていた「西別川の献上鮭」についての講座を実施しました。今や別海町の食のブランドを代表する「西別鮭」に対する興味関心が高まったようです。



昔体験・町内小学校の来館

2月14日（火）上風連小学校3、4年生（16名）、野付小学校3年生（20名）、16日（木）、17日（木）に別海中央小学校3年生（72名）が、「昔の暮らし」「昔の道具を調べる」学習の一環で、来館されました。館内に展示している昔の道具を調べたり、実際に道具（火のし、炭火アイロン、湯たんぽ、石油ランプ、せんべい焼き、火ばち、洗濯板を使う体験をしました。「楽しかった」との感想が多かったです。



近世の別海を探る「西別川河口から北」その 13

タモカ

文献資料の標記は「クムカ」「タモカ」「タモカル」があります。

○地名の由来

〔タモカ〕

「(やち タモカ川) 此處ノツケ(野付)の湾の内に成たり。」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)

○地勢・建物など

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

「此辺谷地なり」『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳安政辰三年調〔子モロ里程〕』加賀伝蔵 安政3年(1856)

「字タモカ 但トコタンより此所迄湖外に御座候」

「此所は入江口落日にて沖手之方二丁程離れヲタイトと申磯嶋有周廻凡壺里半程」

『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1857)



ヲタイト

文献資料の標記は「ヲタイト」「ヲタイト」「ヲタイト」「ヲタイト」「ヲクエト」「エワエト」「オタ エト」があります。

○地名の由来

〔ヲタイト〕「(沙岬)」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)

〔エワエト〕

「此処の沼遠浅にて、貝類をこぎ、手取にするをいふ ワヘト

ト 漕歩行崎」『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)



○地勢・建物など

幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)

「陸上の地名」『大日本沿海地図蝦夷地名表』伊能忠敬 寛政12年(1800)

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

「此所は入江にて、沖手之方式丁程離れヲタイトと申磯島有、周廻凡壺丁半程。」

『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年閏七月〔子モロ場所〕』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

「此所は入江落口にて、沖手之方二丁程離れヲタイトと申磯島有、周廻凡壺丁半程。」

『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1857)

別海町郷土資料館だより No.152

発行日 平成24年3月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

今年は閏年で2月29日がありました。4年に1回で、結婚・誕生日など様々な記念日として向かえる方には、うれしい年になるなと思いました。たとえば年をとらないとか？ そんなことはないと思いますが、何か特別な日に思えてなりません。私だけでしょうか？ (K.I)